

経済・金融 フラッシュ

【マレーシア 7-9 月期GDP】

前年同期比+4.7%

—投資・輸出は回復も、個人消費が 09 年以来の 5%割れ

経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

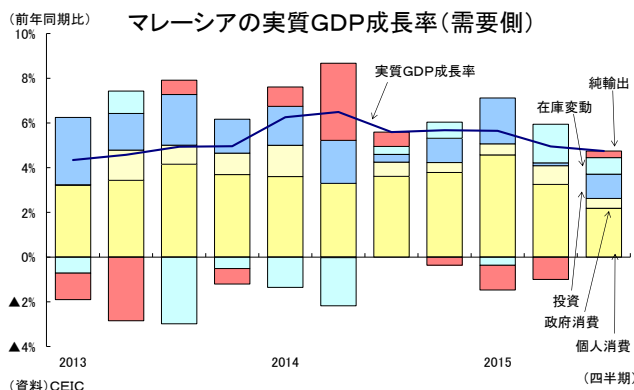
1. 7-9 月期は前年同期比+4.7%

実質GDP成長率¹は前年同期比+4.7%と前期の同+4.9%から低下し、Bloomberg 調査の市場予想（同+4.7%）どおりの結果となった。また、前期比（季節調整済）で見ると実質GDP成長率は+0.7%と、前期の同+1.1%から低下した。

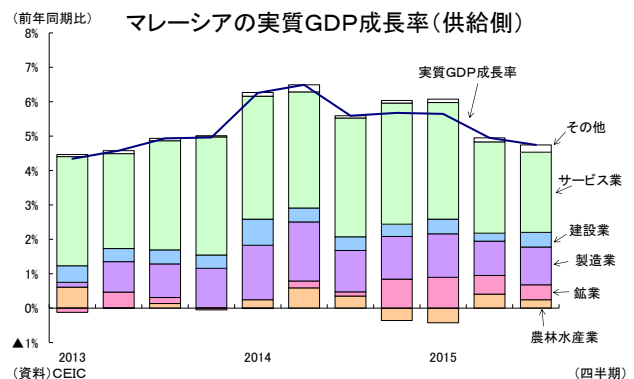
需要項目別に見ると、個人消費の鈍化が成長率低下に繋がったことが分かる（図表1）。民間部門は、個人消費が前年同期比+4.1%（前期：同+6.4%）と低下した一方、民間投資が前年同期比+5.5%（前期：同+3.9%）と上昇した。政府部門は、政府消費が前年同期比+3.5%（前期：同+6.8%）と低下した一方、公共投資が前年同期比+1.8%（前期：同▲8.0%）と政府および公営企業の投資が回復してプラスに転じた。輸出入は、輸出が前年同期比+3.2%（前期：同▲3.7%）、輸入が前年同期比+3.2%（前期：同▲2.8%）とそれぞれプラスに転じた。結果として、純輸出の成長への寄与度は+0.3%ポイントと、前期の同▲1.0%ポイントから改善した。

供給側を見ると、サービス業や農業、鉱業の悪化が成長率低下に繋がったことが分かる（図表2）。サービス業は前年同期比+4.4%（前期：同+5.0%）と小売業や金融、不動産業を中心に低下した。また鉱業は前年同期比+5.3%（前期：同+6.0%）、農林水産業は前年同期比+2.4%（前期：同+4.6%）となり、原油とパーム油の鈍化が影響した。一方、製造業は前年同期比+4.8%（前期：同+4.2%）と上昇した。石油・化学製品が鈍化する一方、家電製品やプリント回路基盤、コンピュータ周辺機器などの電気・電子製品が全体を押し上げた。また建設業は前年同期比+9.9%（前期：同+5.6%）と

（図表 1）



（図表 2）



¹ 11月13日、マレーシア統計庁は2015年7-9月期の国内総生産（GDP）を公表した。

土木工事の急拡大を受けて上昇した。

2. 投資・輸出は回復も、個人消費が09年以来の5%割れ

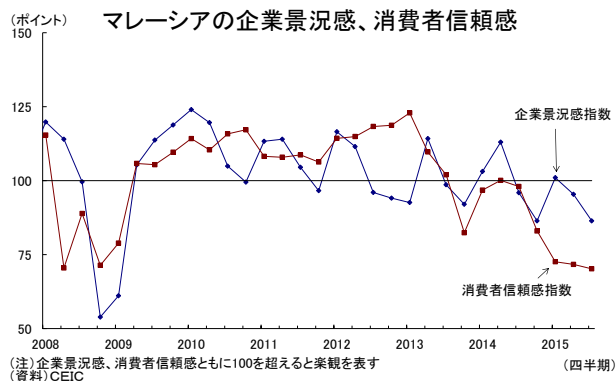
成長率は2期連続で5%台を下回り、7-9月期も昨年後半からの景気減速局面が続いていることが明らかとなった。輸出や投資の回復といった好材料が見られたものの、個人消費が4-6月期から一層鈍化して全体を押下げた。

個人消費の伸び率（前年同期比）が5%を下回ったのは、金融危機の影響で低迷した2009年以来初となる。民間消費の鈍化は、物価上昇に伴う家計の実質所得の減少や消費者マインドの冷え込み、それに労働市場の軟化が影響したと見られる。まず消費者物価上昇率は足元こそ落ち着いているが、今年3月から7月にかけて2.4%上昇（前年同月比）した。これは今年4月のGST（物品・サービス税）導入や急速なリング安に伴う輸入コストの増加に耐えられない企業が価格転嫁を進めたこと、また政府が7月に国内の燃油小売価格を引き上げたことが影響したと見られる。また9月の消費者信頼感指数は70.2ポイントと、景気の先行き不透明感に加えて原油安の長期化や国家財政への懸念、政治に対する不信感²などもマインドの悪化に繋がっており、2008年に起きた世界金融危機以来の低水準を記録している（図表3）。さらには製造業の雇用者数が5月から減少し、失業率には緩やかな上昇が見られるなど、底堅い消費を支えてきた良好な雇用・所得環境には陰りが見える。

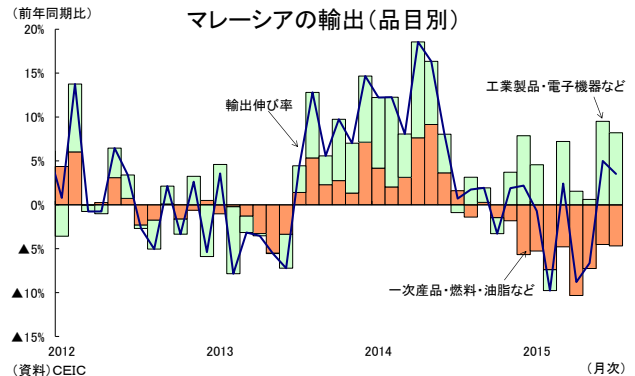
投資はこれまで続いた輸出不振や株価下落などによって企業の景況感が落ち込んでいるものの、設備投資と建設投資がそれぞれ上昇した。これはリング安に伴う価格競争力の向上によって、電気・電子機器をはじめとする輸出型製造業がこれまで抑えてきた投資を一部再開したためと見られる（図表4）。また建設投資はLRT（軽量高架鉄道）やMRT（大量高速交通システム）など交通インフラの整備計画を進める公的部門が冴えない民間部門を下支える状況が続いている。

ナジブ首相は9月に特別経済政策を打ち出し、政府系投資会社のカザナ・ナショナルも足並みを揃えて国内産業の投資計画を進めると公表するなど、政府は弱含む国内経済の下支えに取り組んでいる。しかし、海外の資源需要の回復は遅れており、資源価格に持ち直しの動きは見えていない。従って、今後も石油関連企業の投資計画は先送りされ、石油関連収入が不足する政府の財政余力も乏しい状況に変わりはない。同国経済は海外経済の持ち直しを待つ、苦しい状況が続くそうだ。

（図表3） マレーシアの企業景況感、消費者信頼感



（図表4） マレーシアの輸出（品目別）



² 政府系投資会社1 マレーシア・デベロップメント（1MDB）の債務問題やナジブ首相への献金疑惑など。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。